

MEIKAI

vol.20
Dec. 2014

UNIVERSITY

URAYASU CAMPUS ALUMNI ASSOCIATION



Special Interview

～明海大学が向かう未来～

愛情溢れる厳しい教育、きめ細かい教育

〈対談〉宮田 淳 理事長×北原 淳 同窓会長

Case Study

《ビジネス交流会》コラボレーション事例紹介



同窓会 Facebook ページ

<https://www.facebook.com/Meikai.dosokai>



明海大学浦安キャンパス同窓会報

Special Interview



～明海大学が向かう未来～

愛情溢れる厳しい教育、きめ細かい教育

〈対談〉宮田 淳 理事長×北原 淳 同窓会長

大学の理事長と同窓会長が《同じ名前》で《同い年》、さらには大学職員として実務も共にした経験がある。言うまでもなくこのようなことは稀であり、ほんの少し大げさに考えるなら、何か運命的なものすら感じさせる。

今年3月末に就任した宮田新理事長と北原同窓会長に、お二人の希望もあり浦安キャンパスの屋外で秋晴れの空のもと、明海大学に対する「想い」と「これから」について語っていただいた。



事務局時代の出会い

—お二人は同い年ということですが、そもそものお出会いは？

宮田理事長（以下、宮田） 明海大学で一緒に働いていたんですよ。私は教務に籍を置いていて、北さんは学生支援の部署にいて、本格的に話すようになったのは1994年頃からですね。部署は違いましたが、同じフロアですぐとなりの席で。

北原同窓会長（以下、北原） 淳先生とは、歳も同じということでもどんだん親しくなっていたんです。当時はまだワープロが主流の時代でしたが、淳先生がパソコンについて詳しく教えてくれたんですよ。僕はまだワープロも使いこなせていないような状態だったから、それがすごく印象的でしたね。

宮田 当時、PCインフラ整備を先導する立場にいたので。あの頃はいろいろやりましたよね。自衛消防隊を組織して浦安市の屋内消火栓操作大会で準優勝してメダルを貰って。

北原 そうそう！ 1、2ヶ月前から毎日毎日練習して。ちようどこの場所でコースを作って練習してましたね。あの掛け声はまだ覚えていますよ。あれはいい思い出で楽しかった。スキーや温泉にも行きましたよね。

宮田 ちようどその頃、生涯学習施設を作るオープンカレッジというプロジェクトがスタートして。オープンカレッジは非常にまとまりのある組織だったので、一緒に食事をしたり旅行に行くことが多くてね。お互いセッションが違ったけれど、その流れでよく食事に行ったりしていましたよね。それから北さんは事務局を辞めて大学院に進学しましたが、いつか大学に戻って来て欲しいとお願いしていたら、まさか同窓会長として戻って来てくれるとはね（笑）。

時代と向き合う明海大学の取り組み

—北原会長は明海大学の浦安キャンパス第1期生ですが、当時学内はどのような雰囲気でしたか？

北原 先輩がいなかったもので、あの頃のメンバーにはみんな「自分たちが大学を作っていく」という意識がありましたね。新しい大学に入学しようと思うと自分がそういうメインドのあらわれで、自分でルールを敷いていくぞという感覚の人たちの集まりだった気がします。

—そこから20年近くが経ち、少子高齢化が問題視される今、明海大学では時代に合ったさまざまな取り組みを行っていますね。

宮田 最も大きな変化は、総合大学化を図り外国語学部と経済学部でスタートした浦安キャンパスに、1992年にわが国初の不動産産学部を開設し、2005年には時代の要請を受け、観光立国として今後の日本を支えていく人材を育成するためホスピタリティ・ツーリズム（以下、HT）学部を新設したこと。さらにその間、地域住民の生涯学習の拠点としてオープンカレッジも立ち上げました。このように明海大学は常に進化し続けています。HT学部では、カリキュラムに英語教育を積極的に取り入れました。TOEIC®の点数を進級要件として設定したのですが、TOEIC®スコアというのは、採用



宮田 淳 (Jun Miyata)

1969年生まれ。
1992年3月慶應義塾大学商学部卒業、
1997年3月東洋大学大学院経済学研究科
博士後期課程単位取得退学。修士(経済学)。
明海大学経済学部助教授、ホスピタリティ・ツーリズム学部教授。
学校法人明海大学常務理事、朝日大学法人本部長などを歴任。
2014年3月27日、明海大学理事長就任。



北原 淳 (Jun Kitahara)

1968年生れ。
明海大学卒業後、明海大学事務局勤務。
その後、順天堂大学大学院でスポーツマーケティングを専攻し、1999年3月修士号取得。(スポーツ健康科学)日本プロサーフィン連盟事務局長を務めた後、株式会社に入社。
現在、同社イベントディレクターとして年間60本以上のイベントをプロデュース。
2004年より明海大学浦安キャンパス同窓会長。

を考える企業への大学からの約束で、最近の言葉で言うところの「グローバル・アウトカム」(*)という事です。一方、英語教育は最終目的ではなくあくまでも手段で、航空関係であればエアラインビジネスをカリキュラムに組み込むというように、特化した強みを出していくようにしました。おかげさまで企業からも評価をいただき、毎年上場企業も含め100%近い就職率を達成できているので、このラーニング・アウトカムの仕組みづくりを全学部でも整えようと考えているところで。今年度は、外国語学部にも高度な外国語運用能力に加え、諸外国の異文化理解をはじめとする国際教養とビジネスの専門知識を備えたグローバル人材を育成するグローバル・スタディーズ専攻を開設し、不動産学部では、1・2年次のうちに宅建(宅地建物取引主任者)の資格を取得できるようにカリキュラムを編成しました。また、経済学部では来年の4月から企業経営に関わる理論と実践を学び、会計の基礎知識や財務などの専門知識を身につけた会計や経営のスペシャリストを育成するグローバル経営コースを新設します。

宮田 「企業への約束」についていい言葉ですよ。明海大学を卒業するところについていい約束だと思いませんか、それを社会にアピールすれば企業は受け入れてくれるだろうし、イコール就職に有利になってくると思います。ただ、就職についてもまだ有名大学や歴史のある大学に採用傾向がどうしても行きがちなので、そういう大学の学生たちに負けないよう就職のための教育もしっかりしなければいけない。そのために就職支援体制を強化しました。今は就活コーチングスタッフを入れ、個人面談を行うなど細かく指導しています。授業も就職系の科目を4年間必修にして、学問とは別に就職をサポートしていく体制を整えています。

北原 明海大学が進化を続けているという事はOBとして嬉しい限りです。僕ら卒業生が在学に対してやるべきことは、しっかり仕事をすることなんです。自分たちの仕事ぶりが大学の評価につながっていくので、そこを意識しながら仕事をしていきたい。それがまず大学に対して貢献することだと思っています。ところで、45歳という若さで理事長就任というのは珍しいんじゃないですか？

宮田 そうですね。全体の中では若い方に入るでしょうね。でも、他の大学には私より2つも3つも年下で理事長をやっている方もいます。明海大学は創立者の想いと建学の精神がいつの時代もしっかりと根付いているので、まずはこれが道しるべになつていて、これは間違いありません。私自身の年齢が若いからといって奇をてらつたことをするのはなく、最もやるべきことは「教育回帰」ということだと思っています。時代に合った教育ができるよう、例えばすべての教室にAV設備を整えたり、学内のMEET環境を徹底したり、学生ホールも学生がより快適で充実したキャンパスライフを送れるように改修するなど、インフラ面からも教育を考えています。

北原 オープンカレッジもHT学部新設の時も、淳先生は理事長になる前から新しいことをやる時はいつも率先してやっていますよね。我々と同世代の理事長が誕生したという事は、OBやOGにとってもかなり刺激になると思います。これをきっかけにそれぞれの切磋琢磨していければ、最終的に大学の底力の向上に繋がっていきそうです。

明海大学が向かう未来
— 今後はどのような明海大学にしていきたいとお考えですか？
宮田 愛情溢れる厳しい教育、きめ細かい教育、この2つを推し進めていきたいです。私は今でも現場で教えていますが、自分が年齢を重ねてきたこともあって学生との距離がどうしても広がってきていると感じるのですが、昔はもっと教員と学生との距離が近かつたんですよ。学生たちももっと寄って来たし、教員もそれを受け入れてきた。うちみたいな規模の大学だったらもっと教員との距離を近づけないとね。
北原 なるほど。ところで理事長として、あるいは個人としてどんな夢がありますか？
宮田 大学に永遠の命を与えることが私の夢です。大学が創立100周年という日を無事に迎えられるように、自分がその中で一瞬をどう生きられるか。それから、ちょうど東京オリンピックの年には50周年を迎えるので、そのタイミングで大学がオリンピックに対して何ができるか、というのも一つの夢かもしれないですね。
北原 同窓会としても、東京オリンピックはいろいろなことができるいいきっかけだと思っています。その少し前、2007年に同窓会は発足25周年を迎えますが、その頃にちょうど僕ら世代の子どもたちが大学受験をする年齢になるんですね。その時に自分が学んだ大学に子どもを入学させたいと思える大学、仲間にも勧められる大学になつて

宮田 大学の評価は卒業生の活躍ですし、卒業生の想いは大学が実現すべきことです。この歯車がしっかりと噛み合うことが大切なのかなと。
北原 同窓会の毎年のパーティーも、参加人数が増えてきて会場が少し手狭になった感があつて「外でやるか」なんて話もあつた。ただ、やっぱり年に一回、大学に来て頂けるということを大切にしよう、工夫して学内での開催を続けての事です。
宮田 卒業生たちが母校に戻ってくるというところが、大学にとって一番嬉しいことですよ。
北原 今日お話をうかがつて、向かっている方向が一緒だと改めて感じています。同窓会長としても個人としても、これからも全面的にサポートしていきますよ。
宮田 北さんとはコミュニケーションがしかり取れる。そういう良いコミュニケーションの中で同窓会とも連動して様々な取り組みを行っていただければと思います。なにより北さんはどんなに忙しくてもことあるごとく大学に顔を出してくれるので(笑)。それだけで励みになりますよ。
— 実年齢以上に若さに満ち溢れた「想い」と「行動力」を持つお二人。対談はまるで日常の会話の延長といった雰囲気。そんなリラックスしたムードとは裏腹に、語られた内容は明海大学の次の10年、50年、そして100年にまで向けた、熱い想いに満ちたものだった。明海大学を支え、発展させようというこの「想い」の輪が、読者である同窓の皆さまにも共有されれば、明海大学の未来は必ず大きく拓けたものになっていくだろう。

「学習成果」を意味し、プログラムやコースなど、一定の学習期間終了時に、学習者が知り、理解し、行い、実演できることを期待される内容を言明したもの。「学習成果」は多くの場合、学習者が獲得すべき知識、スキル、態度などとして示される。

コラボレーション事例

前号でイベントの模様をお伝えした《ビジネス交流会》。3万人を超えた明海大学OB・OGの輪を「ヒューマンリソース（＝人的資源）」として捉え、これを有効に活用・共有することで同窓生自身、また、母校の向上にまで繋げることを目的とした、実践的交流会である。

2014年3月に第1回が開催され、多くの同窓生が参加。早くもビジネス事例も生まれている。今回はそもそも「ビジネス交流会」構想のきっかけとなった事例、ならび交流会から実際に生まれた案件を紹介する。

Contents 02 Case Study

ケーススタディ【1】

イベントプロデューサー

×

コンテンツスペシャリスト

ビジネス交流会への着想。

出版事業だけに留まらず、さまざまなジャンルのイベントを手がける㈱樵出版勤務の北原淳同窓会長、そして、東京フードパック(株)経営、東京スマートBBQ協会会長を務める武藤俊一同窓会副会長。二人は同じ第1期生同士だが、同窓会を通じて親しくなり、2013年に初めて仕事を共にした。「山中湖の別荘地を盛り上げて欲しい」という富士急行(株)からのオファーを受け、北原氏は別荘地のオーナーに向けたバーベキューパーティーイベントを提案。同時にバーベキューの専門家である武藤氏に協力を仰ぎ、さらに経済学科第3期生である



タレントのパンツェッタ・ジローラモ氏にゲスト出演を依頼した。

「武藤さんが協力してくれると決まった後、せっかく明海生が二人集まったんだからジローラモさんも呼ぼうということになり、その3人を軸にガーデンスタイルパーティーを企画しました。実際にやつてみて、同窓生同士すでにコミュニケーションがしつかり取れているので、色々余計な心配をしなくても仕事を着実に進められるという利点を強く実感したんです。これが後の《ビジネス交流会》構想の切っ掛けと言えるかもしれませんね。」

そんな北原氏の話に、武藤氏もこう続ける。「同窓生という一つの大きなトリガーがあるので、絶対に一生懸命やろう、成功させよう、と普段以上の強い思いがありました。」



他の仕事とはモチベーションが違いましたね。ビジネスは信頼関係が進んでいきますが、同窓生というのはその関係がより一層強い。例えば第三者を紹介するような場面でも、少しでも不安があるような相手は絶対に紹介しなかつたですね。逆に言うところ、マツチングできるケースは減りますが、そのぐらゐ信頼関係があるということですね。」

このように心地良い関係でビジネスを進めることができたことと話す二人だが、実は以前は営利が発生する場で同窓生同士が関わることには違和感を感じていたという。同窓会の理事という役割にボランティアで参加している以上、営利が介在する話を持ち込んでしまうと根本が変わってしまうのではないかと懸念があったのだ。しかし、その想いは年齢を重ねることで変わっていったという。「メンバーそれぞれがある程度社会で地位を確立している今だからこゝそ始められたのではないか」と武藤氏は話す。

このような思いのもとで開催され、成功を取めたバーベキューイベントは、その後も場所やスタイルを変えつつ、さまざまな形態で続いている。もともと北原氏が主体となつて進められた企画だが、今では武藤氏



武藤 俊一
(むとう しゅんいち)
東京フードパック(株)代表
東京スマートBBQ協会代表
明海大学浦安キャンパス同窓会副会長
第1期卒業生
経済学科

のもとへ直接依頼が来ることもあるようだ。

「あのイベントがきっかけとなつて、僕は身の次のビジネスチャンスをおいいただくことができている。北原さんと直接事業を行う機会は年に数回しかありませんが、ここを基点としてやっているビジネスがすぐにくつも存在します。そういう意味では成功している例だと思えますね。それから、バーベキューはひとつの立派なコミュニケーションツールなんです。知らない人同士でもすぐに仲良くなれてしまう。ですから今後は、同窓生同士の結束力を強めるツールとしても有効活用していきたいですね。」

最後に、ビジネス交流会をきっかけとして多くの同窓生同士のビジネス事例を生んでいきたいという北原氏に、ビジネス交流会の今後について尋ねた。

「昨年からは始まったビジネス交流会ですが、今後は年に2回は必ず開催していきたいと思つています。1つはいろいろな業種の方が集まる通常のビジネス交流会で、もう1つは自分で会社を興している方たちの集まり。そういう人たちはコミュニケーションを求めているだろうし、経営者なりの悩みも抱えている。それを同窓生同士で共有し、新しいビジネスに繋げていけたらと思つています。ゆくゆくは同窓会のウェブサイト同窓生のビジネスに関するデータベースを構築して、仕事で困つた時にお互い協力・活用し合える仕組みを作る、というのも面白いなと考えています。」



Contents 04

Alumni Meeting



11月3日(月)、「明海祭」最終日に、毎年恒例となった「明海大学浦安キャンパス同窓会パーティー」が、今年もレストラン「ニューマリンズ」で開催された。パーティーには明海大学のOB・OGの家族も参加できるとあって、会場には小さなお子さんを含めさまざまな年代の明海大学関係者が詰めかけた。始めに北原淳同窓会長からは、今年4月に就任したばかりの宮田淳新理事長を同窓会としても全面的にバックアップしていこう、という力強いメッセージが送られ、「短い間ですが楽しんでください」と挨拶、来賓の佐々木康史副学長からも挨拶が続いた。乾杯の発声として浦安キャンパス事務部長の中山浩之氏は「皆様のご子息をぜひ明海大学に」というメッセージに続き、来場者全員に向け「おかえりなさい」という温かな言葉があり、和やかな雰囲気の中で会がスタートした。会場にはそれぞれの学部ごとに歓談用のテーブルが設けられ、各学部の教職員も駆けつけた。この日の参加者は総勢300名に上り、終始賑やかな雰囲気では進められ、最後は会場に残った面々で記念撮影を行う1コマも。楽しいひとときはあっという間に終了した。



■参加者 (順不同・敬称略)

【外国語学部】 遊佐昇・柳澤好昭
津留崎毅・市川桃子・金子義隆
桑田良望

【経済学部】 佐々木康史・下田直樹
新井啓・中澤栄一・宮崎礼二
高山太輔・永井攻治
友利厚夫・大石隆介

【不動産学部】 中城康彦・小川清一郎
阪本一郎・山本卓

【ホスピタリティ・ツーリズム学部】
草野健・中井延美

【総合教育センター】
徳田恵・大久保麻実

【職員】 中山浩之・鈴木洋州



Message

恩師からのたより

送る言葉



外国語学部中国語学科教授
市川桃子

けで、段々とそういう風に考えるようになってきました。

ところで、以前、よく通りで若い男性から話しかけられました。「こんにちは。」それは、営業を始めたばかりの卒業生たちでした。偶然、家に飛び込んできた営業マンもいました。「ああ良かった。先生、保険に入ってください」大教室もあつたので、教室で出会った人たちはもう何千人になるかもしれません。まじめな人、おとなしい人、やんちゃな困り者、活発な人、いろいろな学生たちがいました。教室で顔を見るだけの人もいましたし、一緒に旅行をして、夜遅くまで語り合った人、ある人もいたし、せつかく入った会社をすぐに辞めて、違う業種に進んだ人もたくさんいました。

中学生の時に、とても素敵な友人がいました。明るくて楽しくて、思いやりがあつて。何より羨ましかつたのは、彼女がとてもたくさん友人を持っていたことでした。あんな人になりたいと思つて、一生懸命まねをしてみたりしました。がんばつたので、彼女と同じように声を張り上げて活発に振る舞い、友人を何人も作ることもできました。ただ、そうしている内にとっても疲れてしまい、結局、自分には無理だと思ふようになりました。

人には選べないものがたくさんあります。自分の性格は持つて生まれたもので、なかなか変えられませんし、生まれてきた家だつて自分で選んだものではありませんし、容姿も頭の善し悪しも、元々の素質があつて、突然良くなることはめつたにありません。他人の持つているものを羨んでも、その人に成り代わるわけにはいかなないので、やはり、自分は自分として生きていかなければなりません。

つまり、誰もが、自分が持つているものは限られているのだから、自分の能力や体型や環境やその他のものを大切にして、精一杯それを使って生きていくことになるのだらう、と、中学生の時の体験がきっかけで、

それぞれが、自分の持つて生まれた能力や容姿や性格を生かして、それぞれに無理のない、生き生きとした人生を送つて欲しい。出世してもしなくても、まわりから称賛されてもされなくても、そんなことは、それぞれの人が生きて行くに当たつてはたいしたことではありません。今、大切に思つているものがあるのか、目標に向かつてがんばつているのか、生きていく日々が充実しているのか、多分そういうことが重要なのでしよう。

みなさんが、自分の持つているものを十分に生かして、生き生きと毎日を過ごし、幸せな良い人生を送ることを願つていきます。

Report

会計報告

セキュリティの関係上、ホームページ上には公開致しません。

支部Report

経済学科支部 同窓会

意義のある活動をしていきます！

代表 鮫島伸一

2011年に設立し、本年度で4年目を迎えています。設立2年目の時に3カ年計画で「デジタル化」を掲げ、現在、その3年目の活動を行っています。具体的には、ホームページやSNSを活用した、情報発信媒体の整備と活動アーカイブの整理です。ほとんどの卒業生にとっては、現状、あまり同窓会の存在意義が無く、メリットもない状況だと思いますが、皆さんの社会生活や企業活動に多少でも貢献できるよう、様々なサービス・活動を企画し、実施していきたくと考えています。詳細は、別紙『経済学科支部会報』でも内容を報告させていただきます。

不動産学部支部 緑風会

会員相互のネットワーク作りへ

代表 松島孝夫

緑風会も設立から18年目を迎え、会員数も約5,000人を数える組織となりました。

現在、緑風会では大学を卒業した後も、大学とのつながり、卒業生同士のつながりを持てる場を積極的に提供するべく、年3回の懇親会を実施しております。

その一つである緑風会 懇親パーティーを2014年2月21日(金) 19時30分より東京国際フォーラムにて開催いたしました。約50名の卒業生や在学生の他、林亜夫教授、斎藤千尋教授にもご参加いただき、近況報告や情報交換など、それぞれが楽しいひと時を過ごすことができました。



来年2月にも懇親パーティーを予定しておりますので、皆様お誘いあわせの上ご参加くださいますようお願いいたします。

ホスピタリティ・ツーリズム学部支部 明翔会

年代を越えたコミュニケーションの場

代表 山下純八

明翔会では同窓生のコミュニケーション、情報交換の場として毎年2月に同窓会パーティーを行っており、今年度も開催を予定しています。

来年度はホスピタリティ・ツーリズム学部が開設されてから10周年と大きな節目を迎えます。

このすばらしい年に、同窓会として学部全体を盛り上げられる企画も実施したいと考えています。



日本語学科支部 同窓会

日本語学科同窓会の活動について

代表 平山悦子

日本語学科同窓会では、8月30日(土)、新浦安において学科同窓会パーティーを開催いたしました。会には卒業生だけではなく、そのご家族も参加され、和やかな雰囲気のパーティーとなりました。

その他の活動として、卒業生が在学生に卒業後の進路のアドバイスをしたり、卒業パーティーで幹事が同窓会の紹介をしたりしました。

今後は、在学生と卒業生が一緒に参加できるような企画を進めていきたいと考えております。

日本語学科卒業生の皆さん、同窓会の活動をご連絡致しますので、まずは以下の日本語学科同窓会のメールアドレスに是非ご一報をよろしく願いいたします。

日本語学科同窓会メールアドレス：nihongo.meikai@gmail.com

英米語学科支部 明英

設立10周年を見据えて

代表 川部 翔

明英では、毎年6月に懇親パーティー、12月に英語教育セミナー、3月には教育実習事前相談会を行っています。また、12月にはクリスマスカード、3月にはニューズレターを会員の皆様にお送りしています。これからも、前代表の志村典英氏が中心になって作り上げたこの伝統を継承しつつ、会員の皆様にとって、より大きな「よろこび」になるような同窓会組織を目指します。

明英も来年でいよいよ10年目です。来年度のパーティーは10周年の記念として盛大に行います。皆様、ご友人やご家族とぜひご参加ください。

中国語学科支部 同窓会

オープンキャンパスへ参加

代表 川島信一

今年は例年のHSK補助、就職相談、パーティーに加え、高校生に卒業生の立場として中国語学科を薦めるため、オープンキャンパスに同窓会役員を派遣しました。

事業を4つに拡大できたことで、大学の入り口から出口までを広範囲に支援できる組織が完成したと思います。

今年度のパーティーは2015年2月21日(土) 12時から開催します。毎年荒天に見舞われやすい時期ですが、皆さんに会えることを楽しみにしています。

Report

明海祭団体表彰

明海祭期間中、講義棟内で展示発表を行う団体の中から優秀団体を選出する「明海祭参加団体表彰式」が、明海祭の最後を飾るファイナルパーティーで行われた。今年は、不動産関連の展示と討論会を行った不動産学研究会が最優秀賞を受賞。会場には、不動産業界の専門誌『住宅新報』に部員がこれまで執筆してきたエッセイのパネルが展示され、来場した地域住民の興味を引いた。副代表の森田愛理（不動産学科3年）さんは「想像を遥かに超える多数の方が来場してくださったので、

いろいろな面から不動産学部をアピールできました。また、今回やり遂げたことで就職活動にも自信を持って挑める度胸ができました」とコメント。続いて優秀賞には、明海祭期間中に全7公演を行った素人En劇集団劇団明海が選ばれた。団長の藤崎直人（日本語学科3年）さんは「今年の結果を踏み台にして後輩たちには来年、ぜひ最優秀賞を狙って欲しい」とコメントを残した。さらに同窓会賞には漫画研究部が選出。明海祭の来場者に描

いてもらったイラストをラミネートカードにしてプレゼントするという企画が話題を呼び、晴れて今回の受賞となった。部員の山本淳史（中国語学科2年）さんは「部として賞をいただくことは初めてなので新鮮な気持ちです」と話した。



Topics

コミュニティサポート事業

【明海大学 OB ウィナーズ(ソフトボール)】

4/13 ~ 6/1 ■浦安市今川球場

初戦は半年ぶりにもかかわらず、満足な練習時間も取れないままベンチに入るよう指示を受け、不安な状態でのスタートでした。ところが、想定以上に守備が安定していたことに加え、南投手が4回までパーフェクトピッチング。5回に初ヒットを打たれたものの、結果は8-1のコールドゲームでした。

第2戦、初戦からメンバーを3人入れ替え、ライバルのドンキーズ戦。初回、幸先良く2点を奪い、その後も打者一巡の攻撃等もあって7-4での勝利。決勝進出が決まり、秋には晴れて一部昇格となりました。

二部の決勝、対ジェントルマン戦は激しい乱打戦に。通常は80分の時間制ですが、決勝は時間制限なし。猛暑の中、二時間に渡った打ち合いを18-13で制し見事優勝。一部への昇格とともに、8月に行われる京葉5市チャレンジカップへの出場権を得ることができました。



5月17日(土)、浦安キャンパスで2014年度同窓会代議員会が開催され、代議員43人と教職員14人が出席した。

まず始めに北原淳同窓会長と安井利一学長が挨拶。引き続き、同窓会の事業報告や決算報告、新役員の選出、新年度事業計画、予算案などが審議された。

同窓会の主体事業として「広報」「連絡会」「支部」「企画」「財務」「事業支援」「学生

Report

2014年度代議員会

活動支援」の7項目について継続的に活動することが認められた。

また、北原会長から昨年の代議員会で発表された中期計画「ビジョン2017」(※)においても、積極的に事業を展開していくと説明があった。

※中期計画「ビジョン2017」

同窓会発足25周年を迎える2017年までの中期的ビジョンの総称で、母校・明海大学を「自分の子供たちを入学させたい」「知人に勧めたい」、そのような大学にしていきたいという、同窓生共通の願いの実現に向けた取り組み

Club

サッカー部

2014年のテーマは「Revenge」。2013年の関東昇格決定戦において、PK戦で敗退した悔しさを晴らすために1年間活動をしてきました。

大学サッカーの難しさの一つではありますが、1年毎に4年生が引退し、4年間で選手が全て入れ替わるため、当たり前のことではありますが、その年のチームを構築しながら、毎年先を見据えたチーム作りを同時に考えていかなければなりません。そういった意味では、昨年の悔しさを肌で感じている選手達が半数以上いてくれたことは、チームを再出発させる意味でも大きかったです。また、2007年創設の「明海大学体育会」の影響で、年々入部する学生のレベルが毎年上がっており、1年生からリーグ戦に関わる選手が年々増えてきていることにも感謝しています。これは、今までの歴史を築いてきてくださったOB・OG



諸先輩方のおかげでもあり、一緒に頑張ってくれているチームスタッフ（全員明海大学サッカー部OB）の協力無しには成し遂げられなかった事だと強く実感しています。

今後の活動についても、OB・OGの協力なしに部の強化継続及び発展は成し得ないと考えています。納会や活動報告会等を復活させ、OB・OGとのつながりを密にしていきたいと考えています。また、HP上での「OB・OGページ」の開設も検討しており、より早く皆様に情報を提供出来るようにしていきたいと考えています。今後もOB・OGの皆様の暖かいご支援とご協力をよろしくお願いいたします。2015年こそ、創部以来の悲願である「関東2部リーグ昇格」を果たせるよう、全力を尽くします。

(監督 八津川義廣)

Contents 13

Topics

コミュニティサポート事業 【ラグビー部OB会】

9/7 ■稲毛海浜公園

9月7日(日)、稲毛海浜公園において、明海大学ラグビー部OB×現役部員交流会を実施しました。これは毎年9月にラグビー部OB会が主体となり、OBと現役部員の交流を図るとともに、秋の公式戦を控える現役部員の励みもかねて実施しています。

乾杯ののち、主将の浦賀君からの挨拶と夏合宿の報告、公式戦に向けての意気込みなどが語られ、各部員の自己紹介と続きました。

今年は例年よりも多く他大学との合同練習を組むなど、実戦に近い形での練習機会を増やすことで、部員のモチベーションの維持、向上が図られました。その成果もあり、チーム状態は非常に良く、まとまりのあるチームができたとの力強い報告がありました。終始、和やかな雰囲気では運び、OBも日頃の疲れを癒せた良い交流会となりました。

またOB総会を2月末に開催する予定ですので、OBの皆さまの参加をお待ちしています。



Contents 15

Club

ヨット部

全日インカレ大会総合7位・ジュニアワールド日本代表選手に選出

9月の関東学生ヨット秋季選手権大会を470級2位・スナイプ級5位で突破し、2014年度全日本学生ヨット選手権大会への出場を決めた。

大会は初日・2日目とそれぞれ無風・強風のためレース中止。3日も10mの風の中レースが強行されたが、エリア変更や延期などが発生し波乱含みの滑り出しに。前半成績は470級6位・スナイプ級5位という苦しい展開。4日目は強風の中で出艇、

空手道部は、同窓会の皆様をはじめ、教育後援会及び大学のご支援のおかげで体育会に所属し、7年目を迎えることとなりました。本年度は「2014年飛躍の年」を活動テーマとし、男子は鷲野大輝(経済学科4年)主将、女子は齋藤秀穂(経済学科4年)主将を中心に、昨年度の成績を上回ることを目指し部員総勢36名一丸となって、精神面・技術面双方からの強化を図り日夜稽古に励んで来ました。



Contents 14

Topics

コミュニティサポート事業 【マーリズOG会(チアリーディング)】

5/10 ■マンション共有ルーム

5月10日(土)、今年もチアリーディング部OGが集まり、近況報告会を行いました。子供連れのメンバーが増えてきたこともあり、メンバーが住むマンションの共有ルームを使用し、子供を遊ばせながらの報告会となりました。

マーリズは現役生がいないさびしい現状ではありますが、今回メンバーからは結婚、出産の報告などもあり、和やかな雰囲気

この日470級は7位に後退、スナイプ級は何とか3位浮上。芝沼拓也(経済学科2年)・天野大志(経済学科2年)ペアが頑張り、トップフィニッシュするなど活躍。さらに470級でも林優季(経済学科2年)・木村沙耶佳(経済学科2年)ペアが4位に入り、2年生コンビの活躍で何とか総合7位・470級8位・スナイプ級5位とした。

また、11月末に行われた全日本470級ヨット選手権大会では、4チームが本戦出場、2年生女子チームが初のゴールドフリート進出。リオオリンピックナショナルチーム選手に勝ち、堂々の3位入賞。来年7月にギリシャで開催されるジュニア

しかし、今年度の成績は、昨年度を上回るような成績を残すことができず、非常に悔しい1年となってしまいました。ただ、結果こそついてきませんでしたが、チームとしての雰囲気は年々良くなってきており、今年度は部員が1人も途中で欠けることなくチーム全体、まさに一丸となって活動を行うことができました。

次年度に向け新チーム体制となり、より一層チーム力の向上と精神面・技術面の強化を図り、今まで以上に良い成績を残せるよう精進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。(監督 上妻優介)

Contents 12

Club

空手道部

気の中、旧交を温めることができました。

会の後半には子供まで含めたゲーム大会で盛り上がり、まさに家族ぐるみのにぎやかなOG会となりました。

最後は次回の幹事を決め、来年の再会を約束して会はお開きに。今後も1年に1回、交流の機会を持つことで繋がりを維持し、お互いの家族を含めた成長を見守っていただけると感じた一日となりました。



ワールド日本代表選手(1位のみ)に選出された。

毎年ながら、これも同窓会、教育後援会、ならび関係者各位のご支援あつての賜物と、改めて感謝したい。

(監督 國府田由隆)



Contents 17

Report

夢プロジェクト審査会



明海祭の最終日となる11月3日(月)、学生の夢を実現

する資金として同窓会が上限100万円を援助する「夢プロジェクト」審査会が行われ、有志5チームが学生ならではのバラエティに富んだ提案で競い合いました。

今回評価トップであった2企画については、両チームの点数が僅差で、提案内容も甲乙つけがたいものだったこと、さらに審査員の方々から「両企画ともに実現できないか」という声があがり、結果本年は特例として以下の2団体が合格する運びとなりました。



《1位》

チーム名：チームレジェンド

プロジェクト名：スポーツは夢を与える。夢は未来を創造する

■東京オリンピックを念頭に、学生や地域住民を対象にアスリートによる講演会やスポーツ教室を実施。その体験とスポーツの力によって、「夢を描くこと。それを実現すること」の大切さを広める企画。



《2位》

チーム名：利尻礼文を広め隊

プロジェクト名：利尻礼文。ボランティアツアーで真剣に島と向き合おう！

■北海道・利尻礼文島の地域活性化を目的とした学生企画によるボランティアツアー。観光産業を目指す者として、観光資源を守ることは義務だと考え、自然保全と観光をミックスして地域活性を目指す企画。

「意志、創造性、独自性、計画性、合理性、協調性」の6つの項目ごとに評価を行い、審査会を合格した団体には、その後1年間、企画の実現に向け同窓会が資金のみならず様々な支援をしていきます。全5チームのプレゼン後には昨年度の最終報告が行われ、夢を実現した先輩たちからの熱いメッセージに会場が湧きました。

すでに今回の両チームも「夢の実現」へ向け始動しています。夢プロジェクトは、学生の夢の実現に向けて、資金援助だけでなく、同窓生のマンパワーを活用してサポートしていく企画です。活動の様子は、同窓会HPやフェイスブックで随時アップしていきますので、応援をよろしくお願いします。また、ご自分のノウハウを活かし、学生を支援したいというOB・OGの方は、是非同窓会までご連絡ください。info@meikai.com

Contents 16

Club

女子硬式庭球部

今年度活動報告について

今年度から女子硬式庭球部の監督に就任いたしました。スポーツは実力の世界ではありますが、単に上手ければ良いというものではなく、人間性も備わってこそ一流のプレーヤーであると考えます。技術的なことは大切ですが、部員にはまず挨拶や礼儀、感謝の心を持つことを伝えていき、スポーツを通して社会に貢献できる人物へと成長させていきたいと考えております。

今年度のテニス部は、3人の部員で活動を行いました。戦績については、上部に昇格することはできませんでしたが、少ない人数であったからこそ部員一人ひとりとしっかりと向き合うことができ、技術面もかなり向上しました。

部員の募集活動も今後の重要なテーマの一つであると考えています。本学のテニス部、あるいはテニス自体の魅力を、学生に対してもっと積極的に宣伝していかなければならないと感じています。どこの大学も部員を集めることは大変な状況のようですが、来年に向け頑張りたいと考えております。今後とも、応援のほどよろしくお願いします。

(監督 畠中君代)



Contents 18

Report

サマーキャンプ

9月2日(火)と3日(水)の2日間、千葉県鴨川市で今年も浦安キャンパス学友会サマーキャンプが行われた。これは日本人学生、外国人留学生及び教職員等がお互いの連帯感と大学への帰属意識を

深め、ともに明海大学をより良い大学に発展させることを目的に毎年行われているもの。今年は学生・教職員ら約200名が参加し、同窓会からは北原淳会長が参加した。

1日目は『明海大学の未来について考える～10年後の明海大学～』をメインテーマに、各班に分かれて意見交換、2日目はそれぞれの班から初日の意見交換会で出た内容の報告会があり、活発な質疑応答が行われた。参加した学生からは「留学生

や教職員など、普段話す機会の少ない人とも意見交換をすることができ、充実した2日間でした」という声が聞かれた。



Information

■ ビジネス交流会開催予定

同窓生の輪を人的資源として有効に活用・共有することで、ビジネスにおける問題解決や自己の向上を目的とした実践的交流会です。同窓生皆様のご参加を心よりお待ちしております。

① ビジネス交流会《経営者編》

日時：2015年3月上旬（予定）

場所：渋谷 参加費：¥3,000 ＊学生無料

対象：会社経営者、個人事業主及び起業を目指している同窓生。就活の為のスキルアップを目指す学生。

② ビジネス交流会《多業種編》

日時：2015年3月中旬（予定）

場所：渋谷 参加費：¥1,000 ＊学生無料

対象：同窓生同士のビジネス的な繋がりを求めている方。就活の為のスキルアップを目指す学生。

■ お申込み方法

タイトルを《ビジネス交流会参加希望》としたメールにて、「氏名」「学籍番号」「携帯番号」「参加希望する会（① or ②）」「業種・会社名」を本文に明記の上、info@meikai.com までお申込みください。

*日時、場所の詳細は、HPや明海大学浦安キャンパス同窓会ビジネス交流会FBで追ってご確認ください。

詳細・最新情報はこちらから

明海大学浦安キャンパス ビジネス交流会 公式 Facebook

<https://www.facebook.com/Meikai.dosokai.Business>



■ 引っ越しや結婚など、同窓会会員登録情報に変更はありますか？

会員の皆様の情報を把握するために、ホームページ上で登録変更受付をしています。会員情報は会員の皆様への会報や、お知らせをお届けするための連絡先となるものです。情報が変更になった場合は速やかに変更をお願いします。

■ 登録していただく項目

卒業年度／卒業月／学科／名前／旧姓／学籍番号（必須）

現住所／TEL／E-Mail

■ 同窓会ホームページ <http://www.meikai.com/>

■ 同窓会の「コミュニティサポート事業」 同窓生の集まりに最大6万円の支援

サポート条件

- ① 原則として会員が10人以上で集まるコミュニティであること。
* 支援対象者は会員のみ。
- ② パーティーや活動終了後、レポートと参加者名簿を提出すること。
* レポート・名簿ともに既定のフォーマットに記入。
* レポートは、HPや会報に掲載させていただく可能性があります。
* 参加者名簿は、本会のプライバシーポリシーに準じて活用いたします。
- ③ 宗教や政治活動を目的とするコミュニティは対象外。
- ④ 支援は年度内1回のみ。（同じ人が年2回受けることはできません）

■ 支援金

3000円/人 ＊上限60000円（20人相当）

例）参加者15人→45000円支援 参加者25人→60000円支援

■ 利用の流れ

- ① 申込…同窓会ホームページの記載に従い、事務局へ申し込み
- ② 承認…理事会の承認を受ける
- ③ 支援確定…内容に問題がない場合、「支援確定」をメールにて連絡
- ④ 実施…代表者が参加者の現住所を確認、レポート作成
- ⑤ 提出…実施後2週間以内にレポートと参加者名簿を事務局へ郵送
- ⑥ 支払い…代表者へ振込

Contents 20

editorial note

編集後記

今号で同窓会報も20号を迎えることができました。記念すべき20号にふさわしく巻頭企画では、今年3月末に就任された宮田淳理事長と北原淳同窓会長のトップ対談となりました。対談中、とても和やかな雰囲気でお話しをされている様子が印象的でした。記事をお読みいただき、お二人の明海大学を発展させようという強い「想い」が伝わったのではないのでしょうか。

また、同窓生の輪を「ヒューマンリソース（＝人的資源）」として捉え、有効に活用・共有することを目的とした《ビジネス交流会》の事例も紹介しております。このようにビジネスにおいても同窓生の交流及び活躍の場が広がると同時に、就職支援などで在学生のサポートもしていただければと思います。

最後に、この会報を多くの同窓生の皆様にご覧いただき、感想などがありましたらぜひ、同窓会事務局までご連絡いただければ幸いです。
(広報担当：磯見隆行)

参加者・アイデア募集しています!!

① 事業サポーター

自分の仕事やスキルを活かし、同窓会や大学の活動に協力していただける方を募集しています。
年数回のミーティングに出席いただき、ご意見をディスカッションしていただけます。

② 「何かひとつ」～大学の為にできること～

「自分の等身大の力で大学の為に出来ること」を教えてください。良い企画ならば、本会で予算を捻出し、実現に向けて動きます。

いずれも、同窓会事務局アドレス (info@meikai.com) に、氏名・出身学科・電話番号・住所・ご職業を明記してご連絡ください。*②はアイデアも添えて。

